



倭論語卷第七目錄

貴女部

天豐津媛命

押姫命

御間城媛命

日業酢媛命

豐之鋏入姫命

八坂入媛命

倭姫命

仲媛命

春日大娘皇女

石姫皇女

埴部穴穗部皇女

廣井女王

輝子

因幡

班子内親王

一條君

昌子

坊門院

周防内侍

玉子

昭子

馬内侍

阿波内侍

大貳三位

貞子

小式部

安嘉門院

輪子

祐子内親王家紀伊

光明皇后

隆子

中將姬

紫式部

泉式部

明子

堀河

晴子

宣秋門院

兵衛佐

田子

菅内侍

清子

小侍從

小宰相

仙子

慶子

二條院讚岐

伊勢

弁内侍

從二位仲子

小野小町

江侍從

胤子

相摸

赤染右衛門

中務

池尼

覺信

伊豫内侍

源子

從三位豐子

右當内侍

右衛門佐

幸子

高内侍

德子

大納言佐

滿子

兵衛佐

永福門院

民部卿局

玄輝門院

少督局

時子

中子

松下禪尼

朝子

德子

輝子

維子

滿子

准子

勝子

久子

有子

源子

久子

源子

明子

園子

月子

豐子

貞子

長君

万君

松子

經子

糸子

平子

室子

明子

長子

例子

覺女

輝子

重子

忠和門院

奥子

石子

藤子

龍子

倭論語卷第七

貴女部

天豐津あまとよ媛ひめ曰いひ生なま成なり法はり清きよくくままののハハををののままがが要あ念んあ

熟こくく勝かとと上かみとと次つぎ他た乃ののの小こ勝かとと中なかとと次つぎををののままにに

ままけけ他た人ひとははほほくくゆゆをを下したとと次つぎ

人王四代懿德天皇后孝昭天皇母息石耳命

女也

押おし非ひ命の曰いひ公こうよよみみ時ときををああ先まつつらら子こををかかししがが

よよくくぬぬ時ときををああ先まににけけらら我われとといいふふくく次つぎ公こうよよここ

公こうををくくままれれゆゆへへくくけけののひひ公こうよよくくああ先まににけけららここ

おとろかき

人王六孝安天皇、后孝靈天皇、母天足彦国

押人命女也

御間城姫曰。家あひびりて。あのみまぬ事を
侍やせんよ。よくあをん乃神乃ゆよかるふものなり
あのみむ方ハあひらへみへをしくあのみまぬ方ハ
あをんにあつくまへり

人王十世崇神天皇、后垂仁天皇、母孝元天

皇弟一皇子大産人命女也

月業酢媛曰。物つかりむくよら子物をまらから

あをむくかこき物をくくまてくなり。好く
よわこまのうまむべはよきもの。残るくか
つとあ後をまらものハ智恵あり。まら神の
るはまらものなり

人王十一代垂仁天皇、后景行天皇、母彦隅命

子丹波道主王女也

豊鍬入姫命曰。吾神明乃みしけりとい。垂と
乃外かーあ乃るのあくあへあまも。垂と
の外かーびを乃あはわくあをよらら。つら
りしむるやとあら

伊勢齋宮之始也人王十二代崇神天皇女也
母遠津年貞眼々妙媛也

八坂入媛曰人世なくば一と成そ乃くもやす
ものうらふりしれきぬゆみ世くをあらうと
はさじそよのちて成ぬのれんむとゆみ
ものなりあえつら乃くよりとげさしておのむさ
る

人王十二代景行天皇右成務天皇母崇神天

皇弟三皇子八坂入媛余也

倭姫命曰伊勢齋宮はるる先をくまのりた

元宗神なり一念不生乃おひんむ海なり
乃いと成まりてけて神祇と奉ねし
夫神明乃内證は鏡乃如し一物をあぐりて
をうらむるもあよ天鏡をまはるるなり
おらうて虚室乃なりさひそ海に

荒神おひ乃まはるるなり
一念成るとすなり

あぐり乃人よを念あて神明はひ
うらむるもあよまはるるなり

孝代清くふかか

いそゆら佛乃本地ハ衣生なり。衣生乃本地ハ一靈の
王。一君乃本地ハ神明なり。事を起す

ろく先をほく先やうしてほく先のけり先り
つらとや清くもくもくもくのかうけり清くもくもくもく
先乃神のいさ成るめん

吾神明ハ百味と有り。又白乃志也成りては
るなるんるるる一塵乃るるるをり。幣帛を
なす

不淨乃中やくと吾神明とや多し。ぬきするもと

ら我の可清く可清なる下

夫お先をうやまひ。つらよ清くまうりて神明
をある先うやまひ。みをやとつり。お先乃志と
さ成神とせよ

伊勢方宮母垂仁天皇、女皇、大后、業酢媛神道、
之大祖也。日本神道、以天女為根本。

仲媛余曰。神明乃國よ生る。かろをり。一を起るよ
す。かろのハ吾皇のハ小あらし。世くみこあこをり
こと。吾神のハ小あらし。外は吾乃神を
せしや。おまふ。まけく神明乃を。一事を

人王三十二代用明天皇、右也。聖德太子、母也。母、小
姊、君、欽、明天皇、女也。

廣井女王曰、おんく乃人、姑人、汝く、あこ、人、ぬ、い、ま、の
や、妙と、ら、く、次、く、く、は、妙と、あ、る、持、人、なり、その、人、乃
け、く、う、方、と、り、て、け、ぬ、方、を、み、さ、る、か、

和琴道上、祖也。尚侍、從三位、皇、閑院、五宮、天武天皇
才九子、二品、長親王、五世、之孫、從五位上、雄法王、女

也

輝子曰、男子乃女よ、と、い、さ、か、つ、公、あ、く、ば、い、人、を、か、さ、く、
い、く、い、ゆ、る、事、乃、ら、う、か、な、り、と、さ、る、か、

桓武天皇才十皇子仲野親王子、從四位下、伊予守

捕世王、女也。將軍利仁、室也。

因幡曰、おんく乃人、名、佛、乃、氏、氏、を、ん、い、言、さ、る、か、
も、そ、よ、い、く、い、ま、執、行、乃、時、一、言、言、さ、る、か、
佛、乃、氏、を、い、お、く、乃、を、あ、ひ、あ、さ、く、あ、く、
なり、佛、の、い、お、く、乃、を、い、お、く、乃、を、い、お、く、
か、ら、か、

仲野親王第三子、從四位下、因幡守、基世、女也。哥

人

班子内親王曰、後乃女、氏、氏、を、ん、い、合、掌、乃、く、

か鳥とてくくゆに浩影乃おひひをかしい
川々余ををり。是やうとせのりたりやおひ
三世乃佛者々喜常とての免つる。哥に
あさるあさるのぬらぬら救毎に是やかうはあるとさ
人王五十九代宇多天皇母太皇太后女御從三位
号用院后仲野親王女也

一條君曰ありて益かるとものハるんハ志く
八王五十六代清和天皇母三宮貞平親王女也哥
人母京極御息所
昌子のまやかへく賤くともく形と系乃去とが子

此のゆとあひする人まむくおろりなるものなり
正法乃あよゆとてふ事なりとす

人王六十三代冷泉院后母源子女王観音院本乳
也

安嘉門院曰おろり人乃にかに川者たうひ男と
いひまて乃とも母とやまのむじハ。後ハ人おろり
かあひく久しかる人

後高倉院皇女皇后宮後堀河院准母也
坊門院曰かと云まへに二つあり。乃をまのふ所の
あハ。あともあなるがのあ乃あハ。我いともり

右大將道總母日本之美人也或三之内大宰大

貳堆岳女也奇人

光明皇后内裏乃清屏風がせきとてひりま
人きうしてまづきばひるをく世にほけえ
じーつとも是とあめてりやきりそのむはの
みぬれくつとあふしむよるとしてさう海はたの
まうんの三乃清佛は銭あてくづり神明つりな
くまぬまひひるをかしかき物あすや
けら川乃事を何とあくらひけりて言恩乃
おとしもあくむ乃ひりわ乃志川々る対佛の身

通はあづらあそあつとける

三世の佛乃をへをわきまむ世に乃聖賢れを
とてまうあつやをを乃まふゆりまひ人銭うや
まろ酒乃勝負とあめと耳らとひるかしか
ろつりあふ乃あつたてそのうを乃まふをう
ものハ大悪人乃言計一がわがあひ世の報りハ
くわん僧信とそらゆこみらるるらん
今世乃大事と報り別乃事ふあまあよ下と
ろつらそのま銭はまわんをろ乃後生と云ハ
世に佛乃をへをうららぬまなり

大織冠之孫也淡海云才六子也聖武天皇后孝
謙天皇母也母正三縣大養橘十代婦人光明皇
后貞福寺西金堂本願天平宝字四年六月
崩六十歲国母也

昭子曰。おはゆしあふ時いさふくの人みかたる兒
才なり我まよし成失多ハ兄弟親子乃弱もあつて
さなり

貞信云室昭宣云女也

隆子曰。おはゆしあふ時いさふくの人みかたる兒
才なり我まよし成失多ハ兄弟親子乃弱もあつて
さなり

世のどとあはれはる。あのみまはしむれも。うまはる
悪く生果るのなり。その恙地乃おろり各別か
けがあらなり

号皇嘉門院別當。哥人也。皇太后宮亮。後隆
卿女也

馬内侍曰。ふる入乃生ま出るより。天乃配給ふ。廻
る。その知成給ふ。来く。天よさう。海をのり
し。ゆるぬる。そのおんし。ひうか

左馬頭時明也。哥人常道。経双能也。
中將。兼曰。西方ハ。ま。し。や。し。も。つ。ひ。お。り。い。ん。い。

友東丈史信實女奇人あり

田子曰よこらんばくばくあてそののーとて
そのまをさるゝあてのさるゝとてそのーとて
らぬ人なるをさるゝあてのさるゝとてその
天々の人ばくばくあてのさるゝとてその
とすなり言くとさるゝ言くとさるゝとて
あて

後二位仲子の病乃癒はあてけり時りばくばく
世乃のあてけりあてけりあてけりあてけり
く諸社を帯しあてけりあてけりあてけり
あてけりあてけりあてけりあてけり

まのつりあてけりあてけりあてけりあてけり
とあてけりあてけりあてけりあてけり
をさるゝとてそのまをさるゝとてその
佛施乃あてけりあてけりあてけりあてけり
まのつりあてけりあてけりあてけりあてけり
ぬとけり

人王九十九代後光嚴院名國母号梅町殿永徳三
年四月廿六日奉号宗賢門院應永五年五月
廿日薨去九十三歳大慈院開基也

女也

相摸曰。吾身に他人をうくみひらき人をもくみく
おもひ。彼の乃事なり。試みぬを入く。よと海人
るべし。事あり。後人は好つるなり。

相摸乃好つる。よとみ。是なり。一不富。女言し。好は

一説保胤女又兵部補。清女也。

仙子曰。が事。よとぬ。とぬ。よとぬ。よとぬ。よとぬ。
の世。い。ま。好。て。よ。子。なり。よ。の。ぬ。乃。事。か。ひ。り。
出。つ。よ。と。乃。智。者。謀。斗。い。つ。つ。乃。申。北。海。に。さ。り。
人。乃。か。あ。や。う。く。る。の。か。か。ら。な。ま。さ。ん。一。も。ぬ。ぬ。ひ。

可なり。ぬ。ぐ。ひ。と。なり。ま。事。と。よ。ぬ。ま。く。あ。る。が。

内大臣實家。女京極。女。定家。女。大納言。為

家。の。母。也。

赤深右衛門曰。か。乃。け。あ。か。事。よ。の。い。ぬ。成。ら。ご。か。て。
少。と。や。と。ん。事。よ。智。乃。人。も。ぬ。成。安。し。て。か。さ。や。と。
ん。せ。と。あ。て。乃。人。事。安。と。ん。と。と。ら。る。一。わ。く。か。
一。む。べ。し。成。安。と。ら。乃。好。へ。よ。一。生。か。乃。ま。の。き。り。成。

大盛物。兼盛。女。事。人。也。

慶子曰。人。乃。言。と。事。て。い。ぬ。成。す。ゆ。人。乃。悪。と。事。て。
る。い。成。事。り。ぞ。け。是。と。事。す。む。と。事。なり。

とさひあゝぬをいふあすさび人まじり世いふま
まきり君みあるが

右大將頼朝卿母斐田大官司季範女也

永福門院曰世いふあまのあつたふかどう

あつた人乃まづもいおらるるものたぐう後

さとし言乃ほくさそ人乃慈愍乃かさとし言

あ人の世にまきてつわし人あまのりりり

なり。是くめしきものつらなり

三位藤原基輔女弟人也

從三位豊子曰まけきものいふとくならうす

まのいあつとほよまのあつひくうく
移るくわさゆへあつあつあつあつあつ
乃字持女久とまてあつあつあつあつ
こはあつあつ

大江清通室定治母也

民部卿局曰かついこまかあつあつあつあつあつ

とあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

後堀河院典侍弟人也權中納言定家女也

勾當内侍曰あつあつあつあつあつあつあつあつ

あついでをあらとるくおちひしうと時よあついで
て徳乃とほみくをまらう人をいふ然りまくみ
ととのあついであららるる人あついで
後醍醐天皇内侍後二位經平の女行旅の妹
新田右兵衛清盛義貞の女房也
玄輝門院の王九十一代伏見院乃御母云なりし
肉衣造誓のついでにせらむけつ
いひしをいふ能かしては遷幸の日に
なりける玄輝門院一徳ありて同院あり
くさるあついであららるるくさるなりてうさる

宮ひけかへて是を感し
後小遷幸ありなり是はあららるる来はくさる
あついであららるるくさるなり

伏見院母云洞院山階左大臣實雄の女也

右兼作曰世の人乃かたり傳はますなりて一あり
ての幾ありぞ乃世ははるる也なり
人あついであららるるくさるなり
あついであららるるくさるなり
乃人あついであららるるくさるなり
あついであららるるくさるなり

權大納言宣胤の女今川氏親朝臣家也、氏種を
元母也

徳子目よからぬ人乃くせりてをりて乃養ふはよ
して之を習ひて後人法ゆしてその乃よと
あまをてらわせば内づらくは私欲をくまふ事を
左存せしめてびりかしく志教つぬるり何あても人
乃きりつらとある事とあらひゆてハ國家の為な
まを中、我のよふにあらぬ人よしてしづひをまよあ
てをり拵ふ事なり。よろらぬ人法何よと修
しゆ、事ハあらぬ人乃を存。あ、よはよかんと評分

まは、あ、ぬ方ぞよきなり

内大臣秀房の女大宰大貳大内義隆室賢女也
松下祿尼乃許一相州時頼を待入たまひ時祿尼
とけり、是をよむ障子を二るつ、法也、それなる
が、祿尼乃許に、時田保介義系、その母乃許、まよて
あける是をよむ、それり、終り、は、終る、ぬ、ま、ん、の
よ、中、解、らる、と、盡、こ、言、ん、の、い、く、を、ま、よ、か、る、下、や、中、上、ら
ま、川、の、祿、尼、の、母、の、男、あ、海、が、細、ま、い、く、を、海、さ、ら
し、や、そ、し、終、り、て、お、ら、り、け、る、我、義、系、中、け、る、を
一、る、つ、の、海、さ、ら、ま、り、て、み、ら、け、し、ぬ、ひ、ら、ま、れ

人乃云事なり。公をまつてみる。百人百人
あり。俗性あり。人乃ある。は。悪説へ。ふりの。なり
い。す。して。なり。く。き。事。なり。

又。お。か。し。物。が。なり。時。と。あり。ん。く。じ。う。り
人。が。筋。乃。あり。よ。り。の。事。なり。く。は。強。く。あり。き
と。ま。い。なり。の。あり。と。家。國。も。あり。事。あり。さ。し。く。ら
た。の。又。の。あり。は。俗。性。の。なり。人。乃。云。事。なり。を。的
て。みる。に。百人。百人。あり。く。是。し。ぬ。が。り。す。

足利左兵衛督源成氏朝臣女六角子頼
朝臣室

源子曰。世のなり。い。ごと。く。よ。も。た。け。し。む。の。ハ。家。を
す。の。い。と。く。す。り。に。あり。が。あ。ら。す。物。乃。す。さ。あ。り。ハ
あ。い。さ。の。もの。あり。と。ん。か。り。と。子。乃。親。の。不。孝。なり
也。あ。い。さ。り。と。ふ。た。意。なり。の。あり。は。恩。と。わ。り。と。き。り

就。尾。中。納。言。隆。康。之。女。權。中。納。言。量。光。の。母。也
輝。子。曰。乃。ハ。生。死。あり。と。云。ハ。生。死。あり。と。云。ハ。い
と。生。乃。を。後。生。乃。を。る。事。と。云。ハ。生。死。あり
ハ。後。生。の。生。死。あり。と。云。ハ。生。死。あり。と。云。ハ。い

勸修寺教秀公女内大臣實隆公室也
明子曰。乃。ハ。生。死。あり。と。云。ハ。生。死。あり。と。云。ハ。い

がこいもの乃人よじかよあひぬらぬいんし
のよこつと成をまうしてあが上乃ひりよてら
きて出るらんいもしむまはるるい乃をいあ
る

三條太政大臣實香公女具平親王王室也

月子日西明寺時頼諸國と先づりて民乃と
一と世乃のくれぬあつとせんそて執約せ
あしちいひのちなりと語らんあつとの世乃
人乃もろなき公よりおろうこかひなり
仁徳ありて歌なき事とあらざばあひこころい

なり。東國乃日波の志つとぬとちりよとあらぬ
はをしとことごとなり。る由公あつ学者乃どの
まがはしとかなしをより。げうをけりりあこ
かろしけし

柳原悪相廣光卿女後法性寺園自家女房也

雀子日乃物みかめとことそそのる乃事人あ
つてぞとくそわとつとつとつとつとつとつと
しやい物いあつとつと人しを好つとあやそ
んとあつとすつとつとつとつとつとつとつと
下はつとつとつとつとつとつとつとつとつと

方は吾人とかしきハ一方ハ悪人とかしき
徳目利乃るに成なり。悪人とかしき人とかしき
とぬと世に立て。國家を治め俗を治め世の民も延
天曆乃る民よりりじとおとみなり

裏松大納言晴光卿女住吉神主津守国敏

室

豊子曰。の世乃佛者。儒者。いづれに
り。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
ひ入る。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
回乃そ。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに

うたふ人。是をまら。やまひて。その
とわら。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
まら。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに

耻輝軒水俊女將軍義澄公室也

勝子曰。乃此の人乃る。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
衣影の。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
あら。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
いづれ。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに
や。佛者。儒者。いづれに。佛者。儒者。いづれに

鳥丸中納言冬冬女朝倉右衛門大夫室也

貞子ハ九別大内左京大夫義隆ノ妻ナリ或時義隆ハ京ありしに因ふは義隆がひをあせしき房ありけり貞子はつらつら小神やうの物とあつてふみこまの妻うさして久しうに京をたれもはち久しからん事いはずともおのれかきそおに一首の祈さるるそおくまなり

男をけしそ人乃のこころをさるるなり
こころのつらさるるなり
は久きそそか乃女房子のは貞子乃伴はまつりては久けりいもまひおもくもなをさるるなりそそ

義隆ハ久りありてと進いおげりより給ふそそ
こころのつらさるるなり
まひからんとせしは貞子そんハ中こはまがそのまがなりとそそおに久しは久しとつらつら給ひとあり

カ里小路内大臣秀房の女賢女奇人也

久子曰人乃をさるる昔おつものつらつらまきまきぬあそそなり人は久し乃物とあそする久しとあつらふあり昔あるまきまはちこもるおつらあり悪おるまきまはちこもるおつらありあつらあり

関白晴嗣の女准三右国母

奥子曰昔人の徳ある代をすよる人伝録と

交するが格ふ人乃友とく人をもぬと交するが格

るよ母のまゝ人ありぬ事と恥ある事

世中乃人をも心うむゆてもてかひをいふと

政阜中納言平秀信の女佐々貴後領義郷朝臣

室氏郷朝臣母也

石子向もろく乃人のとらけしむ事な付てその

若ありもくもと人との也是を志する人貴

さるの若ありともみるはあはれ



